

学校から、人権の風を吹かせよう



人権同和教育課

アイヌの人々の人権を身近な課題に

令和6年度人権教育総合推進地域に指定された南種子町では、「アイヌの人々の人権」を主要な人権課題と位置付け、推進協力校を中心に、学校と地域が一体となって、地域を見つめ直す人権教育に取り組みました。



移住の歴史に学ぶ

推進協力校の一つである南種子町立長谷小学校区は、戦後、全国から集まった開拓者によって切り拓かれた地域です。荒野を開墾し、入植2年後には小学校を開校した事実は、教育への熱い思いとともに、現在でも地域住民の誇りとなっています。

また、沖縄からの移住者を中心にエイサーが新たな郷土芸能として誕生し、運動会では、毎年校区住民が一体となって踊りを披露するなど、祖先のルーツや生き方、地域の文化を子どもたちが継承する学習が積極的に展開されています。

自分に関わりのある様々な人々の苦労や努力、知恵に触れることで、子どもたちは自分自身を見つめ、他者とのつながりを再確認していきます。地域で多くの人から見守られていると実感することは、安心感や自己肯定感にもつながります。

自分たちの地域と重ねて考えよう

南種子町では、全ての小・中学校の管理職、長谷小学校の教職員を対象に、アイヌ文化継承の先進校である北海道平取町立二風谷小学校長からオンラインで講演をいただき、地域文化継承への思いを踏まえた教育活動について意見交流等を行いました。



北海道でアイヌの人々について触れることへの忌避意識があることを知った。忌避意識が差別解消を遅らせるという点は、他の人権課題にも通じると感じた。

また、教職員、長谷小学校区の地域住民や保護者等を対象に、本課指導主事による人権教育講演会を開催し、アイヌの人々の厳しい差別や偏見に屈することなく自分たちの文化を継承してきた歴史や思いについて学びました。

参加した地域住民の方の感想です。

- 校歌で「開拓」という言葉が使われていることを、今日改めて誇りに思えました。
- 隣近所、声を掛け合い安心して暮らせる長谷が好き。子どもたちにもよさを伝えたいです。



講演の前に行われた学習成果の発表では、「長谷のことをもっと知りたい。」「長谷小で学べてすごく幸せです。」と子どもたちが思いを伝えました。

北海道の二風谷小学校を訪問して感じたのは、文化を継承していこうとする思いは同じだということです。子どもたちは、アイヌ文化について学習した後、自分たちの地域を改めて見つめ直しながら学習を進めていきました。長谷を、そして、種子島を誇りに思うという子どもたちの言葉を聞いた時は、ふるさとへの思いを新たにすることが伝わりうれしかったです。

【長谷小学校職員の声】

北海道と南種子町がつながる

北海道と種子島が「人権教育」でつながりました。人権教育は、人と人をつなぐ教育です。

現在、多くの学校で行われている地域を知る学習を人権教育の視点で捉え直してみましょ。地域の文化や人々の生き方から、子どもたちは多くのことを学び、自分の生き方の土台を築いていきます。人権教育を通して、地域の人と子どもたちをつなぐためにも、学校から地域や社会に向けて、人権の風を吹かせていきましょう。



ホームページが使いやすくなりました

人権同和教育課のホームページを情報の探しやすいシンプルなものにリニューアルしました。是非御活用ください。【鹿児島県】教育・文化・交流 > 学校教育 > 人権同和教育

研修資料

e-コンテンツ
指導資料

学習指導資料

部落問題学習
子どもの権利

研修会・研究指定

研究推進事業・研修会
プロジェクト推進校

調査関係

意識調査

広報

教育情報
がごしま等

